

関西福祉大学大学院カリキュラムポリシー

■社会福祉学研究科

科目は、「福祉理論・歴史研究」「福祉政策研究」「福祉実践研究」「国際福祉研究」の4領域で構成され、原則として、講義科目と演習科目を一体として学ぶ。

「福祉理論・歴史研究」領域では、社会福祉理論及び社会福祉史に関する研究をする。

「福祉政策研究」領域では、国及び地方自治体の社会福祉政策に関する研究をする。

「福祉実践研究」領域では、社会福祉現場での相談支援実践に関する研究をする。

「国際福祉研究」領域では、開発途上にある国に対する福祉開発に関する研究をする。

■看護学研究科

学部教育を継承し発展させるために、学部の教育課程の「看護実践の基盤」と「看護の発展」に分類されている全ての科目を統合・再編成して、「実践看護学」という領域を設定した。そして、「看護システム管理学」、「療養生活看護学」、「健康生活看護学」、「学校保健看護学」の4専攻分野を設けている。

「看護システム管理学」は、『看護実践の基盤』と『看護の発展』の“総合看護”を土台にしてあらゆる看護場面に共通する看護実践の在り方、看護管理、ケアマネジメントの視点から看護の質の保証を探求する。

「療養生活看護学」は、『看護の発展』の“療養生活援助論”を土台として発展させるもので、特化された健康課題をもち医療受容過程にある対象者の看護の在り方を探求する。

「健康生活看護学」は、『看護の発展』の“健康生活援助論”を土台として発展させるもので、潜在的な健康課題のある対象者に対する看護の在り方を探求する。

「学校保健看護学」は、『看護の発展』の“健康生活援助論”を土台として発展させ、児童・生徒の中で健康課題のある対象者に対する看護のあり方を探求する。